

(様式第10)

国 循 発 総 第 22100502 号

令 和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立研究開発法人国立循環器病研究センター

理事長 大津 欣也

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号
氏名	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号
電話(06)6170-1070

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
○	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科		2消化器内科	○	3循環器内科	4腎臓内科	
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科	
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科	
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科		16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	循環器リハビリテーション科	2	病理診断科	3	小児循環器内科	4	小児心臓外科	5	腎臓内科・人工透析内科
6	糖尿病・脂質代謝内科	7	循環器救急科	8	移植外科	9	移植内科	10	心臓血管内科
11	脳血管内科	12	脳神経内科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				550	550

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	163	106.4	269.4
歯科医師	1	0.8	1.8
薬剤師	42	3.2	45.2
保健師	0	1.4	1.4
助産師	28	1.6	29.6
看護師	701	9.2	710.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	11	2.4	13.4

職種	員数
看護補助者	23
理学療法士	25
作業療法士	5
視能訓練士	1
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	2
歯科技工士	0
診療放射線技師	46

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	70
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	6	
その他の技術員	30	
事務職員	191	
その他の職員	429	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	52	眼科専門医	0
外科専門医	20	耳鼻咽喉科専門医	0
精神科専門医	1	放射線科専門医	2
小児科専門医	12	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	0	整形外科専門医	0
泌尿器科専門医	0	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	8	救急科専門医	2
		合計	116

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯原 弘二) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成30年4月より平成31年3月まで九州大学病院医療機器安全管理専門委員会委員長として医療安全管理者の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	438.2 人	0 人	438.2 人
1日当たり平均外来患者数	626.1 人	24.7 人	650.8 人
1日当たり平均調剤数			1224 剤
必要医師数			87 人

必要歯科医師数	2	人
必要薬剤師数	16	人
必要(准)看護師数	242	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	646.07 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	24 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.14 m ²		病床数	3	床	
	[移動式の場合] 台数		台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 15.01 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	396.08 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動臨床検査システム、尿分析装置		
細菌検査室	173.95 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	PCR検査システム、パルスフィールド、電気泳動システム		
病理検査室	174.85 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電気泳動装置、自動染色装置		
病理解剖室	47.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、超低温フリーザー		
研究室	192.16 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置		
講義室	691.72 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3	室	収容定員 504 人
図書室	59.41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1	室	蔵書数 10000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	71.3	%	逆紹介率	128.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		6,901		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,157		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,068		人
	D: 初診の患者の数		12,567		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	今年度はまだ未開催のため未定	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1

柴田 利彦	大阪公立大学大学院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
國子 克雄	心を守る会(患者代表)		医療を受ける者の代表	無	2
鈴木 憲	国立循環器病研究センター副OIC長		医療安全部外の立場からの監査	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	IASDシステムIIによる心不全患者における上昇した左心房圧の低減	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 左室駆出率が保たれた、または中程度の心不全患者において、標準的なカテーテル法によって心房中隔にインプラントを留置し、永久的にシャントを形成することで左房→右房の血流を実現し、左房圧を低減することで心不全症状の軽減やQOLの改善をはかる。			
医療技術名	癒着防止材「BAX602」を用いた体外設置型補助人工心臓装着後の心臓大血管周囲癒着防止	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 心原性循環不全に対して開胸下に補助人工心臓装着術を施行する患者を対象として、BAX602により心臓・大血管表面散布により癒着防止をはかる。			
医療技術名	人工心肺システム「BR13030」を用いた急性重症心不全／急性重症呼吸不全患者に対する補助循環法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 重篤な急性重症心不全および急性重症呼吸不全で、薬物治療や人工呼吸器等のみでは高い死亡率が想定される症例に対して、短中期的に循環補助による生命維持を目的として使用する人工心肺回路セットを使用する。			
医療技術名	虚血性心筋症に対するヒト(同種)iPS細胞由来心筋細胞シートの臨床試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 重症の虚血性心筋症患者を対象としたヒトiPS細胞由来心筋細胞シート移植術であり、現在の治療方法に限界がある重症心不全の病態維持又は改善に期待ができる。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	4
取り扱い患者数の合計(人)	20

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	15
2	筋萎縮性側索硬化症	1	57	特発性拡張型心筋症	1445
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	723
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	33
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	7
6	パーキンソン病	263	61	自己免疫性溶血性貧血	10
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	23
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	15	66	IgA 腎症	86
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	42
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	10	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	3	69	後縦靱帯骨化症	9
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	2
17	多系統萎縮症	5	72	下垂体性ADH分泌異常症	13
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	7	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	25
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	12
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	533	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	35
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	24
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	2
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	7
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	61
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	82
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	466
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	29
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	397
34	神経線維腫症	4	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	1	90	網膜色素変性症	13
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	13
38	ステーヴンス・ジョンソン症候群	3	93	原発性胆汁性肝硬変	3
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	68	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	12	96	クローン病	3
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	60
43	顕微鏡的多発血管炎	3	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	27	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	48	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	94	104	コステロ症候群	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	22	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	17	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	22	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	85	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	35	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	331
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	37
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	6	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質	0	173	VATER症候群	2
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳	0	174	那須・ハコラ病	0
125	動脈症				
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん	0	175	ウィーバー症候群	0
126	性白質脳症				
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	2
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルティ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	1
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	32
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	76
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	3
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	13
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	22
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳	0	204	エマヌエル症候群	1
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	6
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	149
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	224
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	205

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	65	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	103	260	シトステロール血症	3
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	217	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	8	262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	657	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	317	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	94	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	20	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	5	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	11	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	11	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	3
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジュール症候群	3
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	22
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトース型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	121	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	61	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	5
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	3
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	6
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

取扱疾患件数	139
患者数計	7,882

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7:1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・超急性期脳卒中加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算1	・小児入院医療管理料2
・医師事務作業補助体制加算1 (20:1)	・後発医薬品使用体制加算1
・急性期看護補助体制加算 25対1(看護補助者5割未満)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・看護職員夜間12対1配置加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・重症患者初期支援充実加算
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩等管理加算	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	
・入退院支援加算1	
・認知症ケア加算1	
・データ提出加算	
・療養環境加算	
・救急医療管理加算	
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	
・排尿自立支援加算	
・地域医療体制確保加算	
・特定集中治療室管理料1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・小児科外来診療料	・国際標準検査管理加算
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病透析予防指導管理料	・胎児心エコー法
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ヘッドアップティルト試験
・婦人科特定疾患治療管理料	・脳波検査判断料1
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・神経学的検査
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・画像診断管理加算1
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・画像診断管理加算2
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層撮影
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・CT撮影及びMRI撮影
・外来排尿自立指導料	・小児鎮静化MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・無菌製剤処理料
・地域連携診療計画加算	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・人工腎臓
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・導入期加算1
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・遺伝カウンセリング加算	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・同種心移植術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・同種心肺移植術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・経カテーテル弁置換術	・歯科外来診療環境体制加算2
・経皮的肺動脈弁置換術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胸腔鏡下弁形成術	・体外式膜型人工肺管理料
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管管理料 I
・胸腔鏡下弁置換術	・凍結保存同種組織加算
・経皮的僧帽弁クリップ術	・麻酔管理料(I)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(II)
・経皮的下肢動脈形成術	・病理診断管理加算2
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・同種クレオレシピテート作製術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・レーザー機器加算
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・口腔粘膜処置
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・先天性代謝異常症検査
・両室ペースング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペースング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	
・両室ペースング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	
・補助人工心臓	
・小児補助人工心臓	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Value-based medicineの推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究	飯原 弘二	病院	8,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
循環器病に係る急性期から回復期・慢性期へのシームレスな医療提供体制の構築のための研究	宮本 恵宏	オープンイノベーションセンター	10,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたるQOL改善のための総合的研究	白石 公	教育推進部	26,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群の突然死予防に関する研究	相庭 武司	臨床検査部	3,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
原発性脂質異常症に関する調査研究	斯波 真理子	病態代謝部	12,220,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
情報・形態イメージングによる左右非対称性形成機構の解明	望月 直樹	研究所	8,840,000	補 委	科学研究費補助金
脳卒中中のLearning Healthcare Systemに関する研究	飯原 弘二	病院	3,380,000	補 委	科学研究費補助金
患者フレンドリーな核酸医薬を実現する核酸経口剤化技術の新規基盤構築	斯波 真理子	分子病態部	4,160,000	補 委	科学研究費補助金
胸部大血管および心室筋形成における細胞分化の分子機構	渡邊 裕介	分子生理部	5,850,000	補 委	科学研究費補助金
連関する全臓器の恒常性変化を可視化する技術を利用した認知症の超早期診断法開発	山本 正道	研究推進支援部	4,030,000	補 委	科学研究費補助金
Influence of non-vascular cells in accelerated coronary aging in diabetes	Pearson James	心臓生理機能部	5,200,000	補 委	科学研究費補助金
アシルアイドロカーボン受容体シグナルによる肺動脈性肺高血圧症の病態形成機構	中岡 良和	血管生理学部	5,980,000	補 委	科学研究費補助金
成熟心筋細胞の脱分化・増殖誘導機序の解明	菊地 和	再生医療部	3,120,000	補 委	科学研究費補助金
経皮的な心肺補助システムの臨床的課題解決に関する総合研究	巽 英介	副オープンイノベーション長	7,150,000	補 委	科学研究費補助金
高齢者の脳卒中後嚥下障害の急性期診療アルゴリズム確立	猪原 匡史	脳神経内科部	4,290,000	補 委	科学研究費補助金
小口径合成人工血管の新生内膜誘導化修飾とミニブタ移植による開存化実証	山岡 哲二	生体医工学部	4,680,000	補 委	科学研究費補助金
遺伝子組換え動物を用いた生物種間に存在する生殖メカニズムの普遍性と特異性の解明	藤原 祥高	分子生物学部	7,020,000	補 委	科学研究費補助金

原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	大野 聖子	分子生物学部	10,270,000	補委	科学研究費補助金
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	大野 聖子	分子生物学部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
心臓前駆細胞の発生を制御するエピジェネティック因子と転写因子のクロストーク	白井 学	創薬オミックス解析センター(統合オミックス情報解析室)	6,500,000	補委	科学研究費補助金
胎生期心血管形成とヒト疾患に関与するシグナル伝達系の下流因子の意義と制御機構	中川 修	分子生理学部	7,020,000	補委	科学研究費補助金
ミトコンドリア分解制御機構の解明と心不全創薬への応用	大津 欣也	理事長	1,560,000	補委	科学研究費補助金
ブルガダ症候群の複雑形質と人種特異性の新規分子基盤を解明するマルチオミックス研究	蒔田 直昌	研究所	9,490,000	補委	科学研究費補助金
心筋内炎症の鍵となるLSMEM2は拡張型心筋症の予後を規定するか？	新谷 泰範	分子薬理部	6,760,000	補委	科学研究費補助金
急性心筋炎に対する羊膜間葉系幹細胞を用いた抗炎症型再生医療の開発	福嶋 五月	心臓外科部	6,500,000	補委	科学研究費補助金
動圧軸受非接触回転方式遠心ポンプによる小型高性能植込型補助人工心臓の開発	西中 知博	人工臓器部	6,110,000	補委	科学研究費補助金
急性期脳卒中および脳小血管病における認知機能低下に関する多施設追跡調査研究	三輪 佳織	脳血管内科部	910,000	補委	科学研究費補助金
看護研究の倫理に関する研究倫理的側面からの分析調査と教育プログラムの作成	土井 香	医学倫理研究部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
GPR40-腸内環境・細菌叢の相互作用による新規の脂質糖代謝異常の改善機構の探索	富田 努	臨床研究開発部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
発生における脈管間相互作用の役割の解明	浦崎 明宏	分子生理学部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
新規の乳癌発癌モデル系による発癌・進行メカニズムの解明と予防法の確立	伊東 潤二	細胞生物学部	1,020,984	補委	科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病因解明のためのトランスクリプトーム・メタゲノム解析	白石 公	教育推進部	910,000	補委	科学研究費補助金
急性心筋梗塞に対する再灌流後迷走神経刺激による梗塞集縮小効果の機序解明と最適化	稲垣 正司	循環動態制御部	1,820,000	補委	科学研究費補助金
心臓突然死に関連する遺伝子異常・多型の解明と人工知能(AI)の応用	相庭 武司	先端不整脈探索医学研究部	910,000	補委	科学研究費補助金
IL-6阻害による重症肺高血圧症の新規治療法開発に向けた基盤的研究	稲垣 薫克	血管生理学部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
病理組織解析と質量分析の統合による冠動脈硬化性プラーク破綻の機序解明	大塚 文之	心臓血管内科部 冠疾患科	1,040,000	補委	科学研究費補助金

ブルガダ症候群と不整脈源性右室心筋症の臨床的・分子生物学的同異性に関する検討	永瀬 聡	心臓血管内科部 不整脈科	1,300,000	補 委	科学研究費補助金
経カテーテル大動脈弁留置術の予後に左室拡張機能障害を与える影響に関する検討	神崎 秀明	心臓血管内科部 心不全科	390,000	補 委	科学研究費補助金
好中球SiglecへのVWFとADAMTS13の結合を介したNETs形成調節機構	秋山 正志	分子病態部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
第三世代シークエンサーを用いた血栓症の遺伝的背景の解明と診断・治療への活用	宮田 敏行	脳血管内科部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
心筋細胞のDNA損傷応答におけるDNAメチル化制御機構の役割	細田 洋司	再生医療部	910,000	補 委	科学研究費補助金
飽食シグナルとして機能する新規生理活性物質の同定と作用機構の解明	吉田 守克	生化学部	1,690,000	補 委	科学研究費補助金
心臓移植後の冠動脈病変の進行を低侵襲的に予測する方法の検討	渡邊 琢也	移植医療部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
複雑心奇形のベッドサイド血行動態シミュレータの開発	清水 秀二	研究推進支援部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
麻酔科領域で使用されるアトロピンの効果を改善するアトロピンエステルアゼ製剤の開発	山崎 悟	分子薬理部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
脊髄損傷急性期における細胞内ATPのリアルタイムモニタリング	大西 諭一郎	研究推進支援部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
研究倫理コンサルテーションの質保証のための必須記録項目および記録システムの開発	會澤 久仁子	医学倫理研究部	780,000	補 委	科学研究費補助金
低酸素誘導分子に着目した糖尿病性腎臓病機序解明-SGLT2阻害からのアプローチ	榎野 久士	糖尿病・脂質代謝 内科部	1,560,000	補 委	科学研究費補助金
重症心不全領域の急性腎障害警告システム構築と腎機能の可逆性指標に関する基盤的研究	吉原 史樹	腎臓・高血圧内科 部	1,690,000	補 委	科学研究費補助金
遺伝性出血性末梢血管拡張症の統合的な病態解明	岩朝 徹	小児循環器内科 部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
希少心筋疾患に対する重症心不全診療指針の確立	瀬口 理	移植医療部	910,000	補 委	科学研究費補助金
治療抵抗性の冠動脈粥腫内石灰化形成におけるプロテアーゼ PCSK7の意義解明研究	片岡 有	心臓血管内科部 (肝疾患科)	1,027,000	補 委	科学研究費補助金
トランスポーター群の遺伝子異常による心筋恒常性の破綻と心臓突然死の関連の解明	石川 泰輔	創薬オミックス解 析センター	1,300,000	補 委	科学研究費補助金
二次性MRに対するカテーテル修復術のレスポンス同定と費用対効果分析	天木 誠	心臓血管内科部 (心不全科)	520,000	補 委	科学研究費補助金
メカノセンサーチャネルを標的とした心筋症・心不全新規治療法の開発	岩田 裕子	分子生理部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金

ビッグデータによる心筋梗塞の慢性期を含む新規医療の質指標の開発と国際共同比較研究	中尾 一泰	心臓血管内科部 (肝疾患科)	910,000	補 委	科学研究費補助金
組織特異的AHRノックアウトマウスを用いた肺動脈性肺高血圧症発症メカニズムの解明	岡澤 慎	血管生理学部	1,690,000	補 委	科学研究費補助金
心内膜心筋生検試料のプロテオーム解析手法の確立と応用	若林 真樹	創薬オミックス解析センター	1,690,000	補 委	科学研究費補助金
グレリンの生理作用を応用した「抗癌剤誘発性心筋症」に対する画期的治療法開発	徳留 健	生化学部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
心臓リモデリングにおける交感神経非依存的な新規の脳-心臓連環機構の解明	大谷 健太郎	再生医療部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
高動脈炎に関連する肺高血圧症に対するIL-6阻害薬の有効性と治療指標の探索	上田 仁	心臓血管内科部 (肺循環科)	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
近赤外線分光法による麻酔薬の脳血流・脳酸素代謝に対する影響の評価	吉谷 健司	輸血管理部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
脳動脈瘤壁の慢性炎症と退行性変化をもたらす血行力学的因子の解明	片岡 大治	脳神経外科部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
脳動脈瘤破裂予防を目指した創薬標的の同定	青木 友浩	分子薬理部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
骨代謝調節因子による肥満やそれに起因する脂肪肝炎の制御とその病態生理学的役割	日野 純	生化学部	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
医療アクセスが急性期脳卒中の患者予後に及ぼす影響	笹原 祐介	情報利用促進部	130,000	補 委	科学研究費補助金
フレイル予防の視点を取り入れた高齢者の脂質管理に関する研究	竹上 未紗	予防医学・疫学情報部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
行動変容ステージに基づいた個別勧奨システム構築による心臓リハビリ継続率向上	中西 道郎	循環器病リハビリテーション部	1,560,000	補 委	科学研究費補助金
低栄養合併の高齢心不全例に対するHAL腰タイプ併用リハビリテーションの可能性	山本 壱弥	リハビリテーション科	1,300,000	補 委	科学研究費補助金
初期メタボリックシンドロームに対する運動療法の予防・改善効果の多層的解明	土持 裕胤	心臓生理機能部	1,820,000	補 委	科学研究費補助金
急性期脳梗塞における血管内治療室内での灌流画像を用いた診療支援システムの構築	井上 学	脳卒中集中治療科	819,000	補 委	科学研究費補助金
膜リン脂質を介したpH依存性細胞応答機構の解明	迫 圭輔	細胞生物学部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
心臓弁形成における力学応答性シグナル変換機構の解明	福井 一	細胞生物学部	1,560,000	補 委	科学研究費補助金
がん薬物療法による心筋障害の病理学的検討	畠山 金太	病理部	1,300,000	補 委	科学研究費補助金

遺伝性脳小血管病iPS細胞を用いた病態モデルによる創薬:核酸医薬と既存薬再開発	山本 由美	病態代謝部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
脳血管障害・肥満の共通基盤候補としてのRNF213遺伝子多型と機能的意義の解明	野口 倫生	バイオバンク	1,300,000	補委	科学研究費補助金
3000人規模コホートによる新世代CGMを用いたIGTの心血管病発症機構の解明	細田 公則	糖尿病・脂質代謝内科部	1,950,000	補委	科学研究費補助金
人工知能を用いた大規模脳卒中登録研究解析による治療方針決定補助と転帰予測	吉村 壮平	脳血管内科部	1,950,000	補委	科学研究費補助金
胎児QT延長症候群の非侵襲的な早期診断法確立のための研究	加藤 愛章	小児循環器内科部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
周産期心筋症の病態一遺伝要因・心筋炎症・血管障害一解明研究	神谷 千津子	産婦人科部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
冠動脈疾患各種画像診断からの情報統合と深層学習を融合した革新的治療補助法の開発	浅海 泰栄	心臓血管内科部 (心臓血管系集中治療科)	2,860,000	補委	科学研究費補助金
肺高血圧症におけるgp130依存性サイトカインシグナルの役割の解明	石橋 知彦	血管生理学部	1,690,000	補委	科学研究費補助金
治療抵抗性肺動脈性肺高血圧症に対する自律神経叢除神経治療に関する探索的臨床研究	大郷 剛	肺高血圧症先端医学研究部	1,820,000	補委	科学研究費補助金
組織透明化による循環器疾患の解析ーミクロレベルの立体構造と微小環境の可視化に挑む	大郷 恵子	病理部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
Elucidation of the pathology in ARVC caused by Japanese-specific DSG2 mutations using knock-in mice models: searching for the therapeutic	ZANKOV Di mitarP	分子生物学部	1,820,000	補委	科学研究費補助金
家族性高コレステロール血症の残余リスク制圧:コレステロール搬出促進薬の開発基盤	小倉 正恒	病態代謝部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
心筋脱分化を特異的に誘導する新規転写因子の機能解析	小川 真仁	再生医療部	1,820,000	補委	科学研究費補助金
新たな生理活性ペプチドと受容体システムによる生体制御機構の解明	森 健二	生化学部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
Reverse remodelingを促進させる新たなLVAD駆動方法の開発	田中 駿	人工臓器部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
V-A ECMO治療成績向上のための最適な左室後負荷軽減法の検討	藤井 政彦	人工臓器部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
妊娠関連血栓性疾患の治療量抗凝固療法の確立と遺伝子解析に関する研究	根木 玲子	ゲノム医療支援部	1,690,000	補委	科学研究費補助金
ゲノム解析が切り拓く心房細動の新展開	謝 珮琴	病態ゲノム医学部	1,950,000	補委	科学研究費補助金
都市部地域住民を対象とした、低T3症候群と心血管疾患発症・死亡に関する追跡研究	河面 恭子	予防医療部	1,040,000	補委	科学研究費補助金

持久運動困難な慢性心不全入院患者に対する和温療法併用心臓リハビリテーションの効果	横田 千晶	脳血管リハビリテーション科	1,820,000	補委	科学研究費補助金
糖尿病が骨格筋の易疲労性を引き起こす血管内皮依存性メカニズムの解明	曾野部 崇	心臓生理機能部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
気候変動シナリオに基づく気温関連の超過罹患に関する将来予測モデルの開発	小野塚 大介	予防医学・疫学情報部	1,690,000	補委	科学研究費補助金
心筋細胞の老化を定義づけるエピジェネティック変動の解明	白井 学	創薬オミックス解析センター	1,820,000	補委	科学研究費補助金
マウス生体内のミトコンドリア内ATP産生速度の定量的計測法開発	山本 正道	研究推進支援部	2,470,000	補委	科学研究費補助金
エネルギー代謝を司る腸内細菌叢由来の新規ペプチド性因子の探索と機能解析	宮里 幹也	生化学部	1,950,000	補委	科学研究費補助金
血中 β 2ミクログロブリンを肝臓から排泄する新たな薬物-誘導除去療法のPOC構築	山岡 哲二	生体医工学部	6,500,000	補委	科学研究費補助金
胎盤型ECMOシステムを用いた新生児呼吸循環障害の革新的管理法の創出	水野 敏秀	人工臓器部	3,510,000	補委	科学研究費補助金
哺乳類精子に対する新規診断マーカーと可逆的受精能阻害剤の開発	藤原 祥高	分子生物学部	2,600,000	補委	科学研究費補助金
血中循環型高分子MRプローブとMRI磁場を利用した微細脳動脈瘤アブレーション技術	馬原 淳	生体医工学部	2,210,000	補委	科学研究費補助金
Brugada症候群における遺伝子多型が心イベントに与える影響	山形 研一郎	心臓血管内科部 不整脈科	130,000	補委	科学研究費補助金
虚血性心臓病の病態生理を考慮した高精度・非侵襲的な発症リスク評価法の確立研究	細田 勇人	心臓血管内科部 心臓血管系集中治療科	1,040,000	補委	科学研究費補助金
マルファン症候群およびその類縁動脈疾患の病態と遺伝基盤の解明および治療法の確立	柳生 剛	心臓血管内科部 血管科	780,000	補委	科学研究費補助金
Understanding the pathogenesis of right heart failure in pulmonary arterial hypertension	ワディングム マーク・トーマス	肺高血圧症先端 医学研究部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
エクソソーム、炎症マーカー、遺伝子の解析による糖尿病における認知症発症の病態解明	松原 正樹	糖尿病・脂質代謝 内科部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
脳心血管疾患での抗血栓療法中の大出血予測方法の開発、および脳小血管病の影響の解明	田中 寛大	脳血管部門 脳卒中集中治療科	1,040,000	補委	科学研究費補助金
心筋MRI遅延造影画像から再現した病理画像を用いた心筋症診断法の開発	太田 靖利	放射線部	390,000	補委	科学研究費補助金
4次元ノイズ低減法を教師とした拡張知能によるノイズ低減法の心臓CTへの応用研究	西井 達矢	放射線部	1,040,000	補委	科学研究費補助金
心筋トランスクリプトーム解析による、遺伝性不整脈の新たな病態解明	園田 桂子	分子生物学部	1,170,000	補委	科学研究費補助金

光干渉断層法を用いた新しいヒス束ペーシングデリバリーカテーテルの開発	石橋 耕平	心臓血管内科部 不整脈科	1,820,000	補 委	科学研究費補助金
非侵襲・低侵襲モダリティを用いた成人先天性心疾患における心肝連関の病態評価	塚本 泰正	移植医療部	910,000	補 委	科学研究費補助金
植込型左室補助人工心臓術後の合併症発症予測因子としての血管内皮機能の有用性の検討	土井 誠子(中島)	移植医療部	1,300,000	補 委	科学研究費補助金
LVAD装着後心室間同期不全の病態解明	島村 淳一	人工臓器部	260,000	補 委	科学研究費補助金
常在細菌叢と重症心不全ならびにドライブライン感染との関係の検討	田所 直樹	血管外科部	650,000	補 委	科学研究費補助金
味覚の再生に向けた改良型味蕾オルガノイドの作製と移植技術の開発	藤田 恭平	病態代謝部	780,000	補 委	科学研究費補助金
脳卒中データバンクを用いた再開通治療の実態解明とデータフィードバック効果の検討	園田 和隆	脳血管部門 脳卒中集中治療科	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
退院後心不全患者の包括的管理を可能とする革新的遠隔心臓リハビリテーションの確立	三浦 弘之	心臓血管内科部 冠疾患科	1,170,000	補 委	科学研究費補助金
慢性腎臓病患者に特化した認知機能低下の予測モデル・因果構造仮説・予防モデルの開発	尾形 宗士郎	予防医学・疫学情報部	910,000	補 委	科学研究費補助金
糖尿病性腎臓病予測マーカー探索：超精密血糖変動評価、エクソソーム解析を含めた検討	肥塚 諒	糖尿病・脂質代謝内科部	1,040,000	補 委	科学研究費補助金
血液凝固制御因子プロテインSおよびプロテインCの活性測定法の開発	丸山 慶子	分子病態部	1,430,000	補 委	科学研究費補助金
脳血管造影とMRIの融合画像を用いた穿通枝領域の脳梗塞の病態解明	高下 純平	脳血管内科部	1,300,000	補 委	科学研究費補助金
Function and mechanism analysis of short QT syndrome related KCNH2 gene variants	Wang Qi	分子生物学部	1,560,000	補 委	科学研究費補助金
血流予備比(FFR)を用いた重症虚血肢治療アルゴリズムの構築	米田 秀一	心臓血管内科部 (肝疾患科)	1,950,000	補 委	科学研究費補助金
肝臓の網羅的遺伝子発現解析から探る肺高血圧症の新規病態形成メカニズムの解明	浅野 遼太郎	肺高血圧症先端医学研究部	2,210,000	補 委	科学研究費補助金
循環器病に対する薬物療法認知コンピューティング支援ツールの開発と臨床応用	藤野 雅史	心臓血管内科部 (肝疾患科)	780,000	補 委	科学研究費補助金
Vector Flow Mappingを用いた運動負荷前後の血行動態変化の検証	天野 雅史	心臓血管内科部 (心不全科)	780,000	補 委	科学研究費補助金
トランスサイレチン型心アミロイドーシス新規治療薬の最適化と費用対効果の検討	岡田 厚	心臓血管内科部 (心不全科)	910,000	補 委	科学研究費補助金
慢性心房細動におけるf波波高と術中測定心房電位、心房線維化の関係性についての研究	角田 宇司	心臓外科部	780,000	補 委	科学研究費補助金

重症患者の心臓エネルギー効率制御を目指した右心系モニター法の開発	伊藤 芳彰	麻酔科	1,560,000	補委	科学研究費補助金
人工知能を用いた気象観測データを基にした心原性院外心停止の新規予測モデルの開発	中島 啓裕	心臓血管内科部 (心臓血管系集中治療科)	1,170,000	補委	科学研究費補助金
臨床試験における適応的な試験計画の最適化に関する統計的方法の研究	朝倉 こう子	データサイエンス部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
在宅認知症高齢者におけるリハビリテーションを含む介護サービス利用の長期的効果検証	村田 峻輔	予防医学・疫学情報部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
認知症の発症前段階を検出するための複合画像バイオマーカーの開発	中奥 由里子	予防医学・疫学情報部	2,470,000	補委	科学研究費補助金
桿体視細胞が暗所視特化のために獲得したcAMP依存性キナーゼ調節の分子基盤	佐藤 慎哉	組織特異的血管病態研究室	2,730,000	補委	科学研究費補助金
左右非対称性から説明する心臓-血管連結機構の解明	福本 萌	細胞生物学部	2,080,000	補委	科学研究費補助金
呼吸鎖酵素の新規アロステリック調節機構の証明と抗菌剤開発への展開	西田 優也	分子薬理部	2,340,000	補委	科学研究費補助金
化学交換飽和移動イメージング法を用いた新規精巣機能イメージング法の確立	高橋 佑典	分子薬理部	2,340,000	補委	科学研究費補助金
大規模保健医療情報を用いた、心血管疾患の個別化発症予測モデルの開発	金岡 幸嗣朗	情報利用促進部	1,950,000	補委	科学研究費補助金
疾患モデルiPS細胞を用いたKCND3変異による早期再分極症候群の病態解明	高山 幸一郎	分子生物学部	2,340,000	補委	科学研究費補助金
集中治療医の臨床判断を支える低侵襲循環機能モニタリング	西川 拓也	研究推進支援部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
もやもや病感受性遺伝子産物RNF213によるシグナル制御機構の解析	崔 廷米	研究推進支援部	2,340,000	補委	科学研究費補助金
脳動脈瘤病態を形作る慢性炎症環境の成立要件としての脳血管内皮細胞間バリア機能破綻	栢原 智道	分子薬理部	2,340,000	補委	科学研究費補助金
ペリサイトに着目した脳梗塞超急性期の炎症惹起機構の解明	千代田 大尚	再生医療部	1,419,105	補委	科学研究費補助金
コラーゲン結合蛋白産生性齧蝕原性細菌の脳微小出血発症機序と革新的治療法開発	服部 頼都	脳神経内科部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
Cnm陽性S. mutansの全ゲノム配列に基づく新規治療法の開発	齊藤 聡	脳神経内科部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
ウィズコロナ時代の研究者主導脳卒中臨床試験における遠隔モニタリングの有用性	福田 真弓	データサイエンス部	1,040,000	補委	科学研究費補助金
リンパ系を介した免疫・炎症増強による脳血管機能低下が虚血ペナンプラに及ぼす影響	前田 久	心臓生理機能部	2,210,000	補委	科学研究費補助金

Significance of a troponin complex gene in embryonic development and disease	LAMRI LYN DA	分子生理部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
異なるヘムタンパク質に共有される新規アロステリック活性調節機構の解明	長尾 壮将	分子薬理部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
放射光微小血管イメージングを用いた脳血管内皮機能に対する運動効果の統合的解明	前田 久	心臓生理機能部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
A new glucose-responsive injectable hydrogel for mesenchymal stem cells transplantation to rat myocardial infarction heart	Le Thi. Hue	生体医工学部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
SGK1リン酸化酵素の血管発生制御・内皮細胞シグナル伝達における機能メカニズム	原田 恭弘	分子生理部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
難治性血管疾患の病態多様性メカニズムにおける遺伝子変異と後天的要因の意義	垣花 優希	分子生理部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
急性期心不全へのARNI SGLT2阻害薬 MRA β遮断薬の有用性と副作用回避	清重 映里	予防医学・疫学情報部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
脊椎動物モデルに共通する受精の分子メカニズムの解明	藤原 祥高	分子生物学部	7,670,000	補委	科学研究費補助金
遺伝子改変動物を用いた精子成熟メカニズムの解明	櫻井 伸行	分子生物学部	1,560,000	補委	科学研究費補助金
脳波を用いた表情機能の同定	渡邊 朝子	脳卒中・循環器病次世代医療研究部	450,000	補委	科学研究費補助金
遺伝性脳小血管病CADASILのin vitro病態モデルを用いた新規治療法開発	山本 由美	病態代謝部	1,430,000	補委	科学研究費補助金
がんサバイバーの循環器疾患:がん特異的危険因子解明とリハビリテーション効果検証	村田 峻輔	予防医学・疫学情報部	1,300,000	補委	科学研究費補助金
血管機能障害に着目したエネルギー代謝異常病態の解明と新規治療戦略の開発	延生 卓也	生化学部	1,690,000	補委	科学研究費補助金
短鎖脂肪酸を介した肺高血圧症病態制御メカニズムの解明	西村 愛美	血管生理学部	350,000	補委	科学研究費補助金
膠原病性肺高血圧症の病態を反映した新規モデルマウスの免疫系細胞動態の解明	桐野 友美	血管生理学部	470,000	補委	科学研究費補助金
細胞の三次元配置技術に基づいた小口径脱細胞血管等組織再生材料の創成	山岡 哲二	生体医工学部	34,293,090	補委	日本医療研究開発機構
洞不全症候群の臨床情報・遺伝学的解析に基づくリスク層別化アルゴリズムの開発	大野 聖子	分子生物学部	13,000,000	補委	日本医療研究開発機構
東アジア特有の高血圧・脳梗塞リスクRNF213p.R4810K多型の迅速判定法の確立と判定拠点の構築	猪原 匡史	脳神経内科	13,000,000	補委	日本医療研究開発機構
遺伝子関連情報の解析を用いた臓器移植に関わる個別化医療に関する研究	福嶋 教偉	移植医療部	7,800,000	補委	日本医療研究開発機構

脳梗塞急性期のアドレノメデュリン静注療法の確立	猪原 匡史	脳神経内科	73,894,964	補 委	日本医療研究開発機構
脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性型第VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験	豊田 一則	病院	39,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
他家羊膜間葉系幹細胞を用いた重症特発性拡張型心筋症に対する新規治療の開発	藤田 知之	心臓血管外科	39,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
致死性不整脈の原因心筋イオンチャネル遺伝子に同定されるVUSのハイスループット機能評価法に関する研究開発	蒔田 直昌	研究所	39,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
急性心筋梗塞の予後を改善する経皮的迷走神経刺激システムの開発	稲垣 正司	循環動態制御部	16,900,000	補 委	日本医療研究開発機構
脳卒中における循環器病感受性遺伝子の役割解明とゲノム医療の探索	猪原 匡史	脳神経内科	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
メタボローム情報に基づく肺-腸-腸内細菌相関による肺動脈性肺高血圧症の発症機構	中岡 良和	血管生理学部	11,115,000	補 委	日本医療研究開発機構
不整脈原性右室心筋症の分子メカニズムに基づくエビデンス創出研究	大野 聖子	分子生物学部	11,732,500	補 委	日本医療研究開発機構
新規血栓溶解薬テネクテプラゼの脳梗塞急性期再灌流療法への臨床応用を目指した研究	豊田 一則	病院	78,458,562	補 委	日本医療研究開発機構
性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発	野口 暉夫	病院	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
原発性高カイロミクロン血症を対象とした、アンチセンス医薬の開発	斯波 真理子	分子病態部	65,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
抗Interleukin-21アプタマーを用いた肺動脈性肺高血圧症の革新的治療薬の開発	中岡 良和	血管生理学部	130,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性血栓閉塞性肺高血圧症における肺動脈バルーン形成術の医療の質評価及びフィードバックシステムを構築する社会実装研究	小川 久雄	病院	11,912,750	補 委	日本医療研究開発機構
力学的刺激で活性化される心臓免疫シグナルの解明と治療応用	新谷 泰範	分子薬理部	72,800,000	補 委	日本医療研究開発機構
マイクロバイオームを介した脳卒中発症メカニズムの解明	中岡 良和	血管生理学部	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
研究利活用のための脳卒中病態解明に資するゲノムデータベースの構築	古賀 政利	脳血管内科部	6,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
新世代の認知行動療法「ACT」を用いた糖尿病セルフマネジメント法の開発	槇野 久士	糖尿病・脂質代謝内科	19,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
健康・医療データの収集・利活用による生活習慣病予防に関する研究	宮本 恵宏	オープンイノベーションセンター	26,000,000	補 委	日本医療研究開発機構

小児先天性心疾患患者の生涯にわたるQOL改善を目指した、最適な治療方針決定のためのマルチスケール・マルチフィジックス心臓シミュレータ“ped UT-Heart”の開発と事業化	白石 公	教育研修部	37,612,900	補 委	日本医療研究開発機構
脳動脈瘤ビッグデータとAIを用いた増大破裂関連因子抽出と予測システムの構築	片岡 大治	脳神経外科	12,999,409	補 委	日本医療研究開発機構
超高齢社会における健康寿命の延伸を目指した脳卒中予後予測モデルの開発	飯原 弘二	病院	23,400,000	補 委	日本医療研究開発機構
将来の創薬を念頭に置いた心不全発症・増悪リスク層別化マーカーの開発	坂田 泰彦	臨床研究開発部	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
肺動脈性肺高血圧症の重症化の鍵となる炎症関連転写因子を標的とした革新的治療法・診断法の開発(医薬品ステップ0)	中岡 良和	血管生理学部	33,670,000	補 委	日本医療研究開発機構
ヒトiPS分化細胞技術を応用した医薬品の心毒性評価法の開発と国際標準化に関する研究	細田 洋司	再生医療部	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
チトクロムCオキシダーゼを標的としたミトコンドリア病の新規治療薬開発	新谷 泰範	分子薬理部	31,590,000	補 委	日本医療研究開発機構
研究計画立案早期からのインタラクティブな多職種協調による高品質の臨床研究計画作成支援体制の構築	南 学	データサイエンス部	15,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
臨床研究中核病院以外で実施される急性期脳卒中の特定臨床研究においてリスクベースドモニタリングを実装するために試験実施機関に求められる体制整備に関する検討	福田 真弓	データサイエンス部	6,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症(CADASIL)患者を対象としたアドレノメデュリン静注療法による安全性および有効性に関する多施設共同単群試験	猪原 匡史	脳神経内科	110,692,400	補 委	日本医療研究開発機構
肥大型心筋症患者における診療の実態調査および突然死/拡張相への移行に関する新規予測プログラムの開発とその検証	泉 千里	心臓血管内科部	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ベリハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRブランクイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	野口 暉夫	病院	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
肺高血圧症に伴う重症右心不全に対する一酸化窒素(アイノフロー®)吸入治療に関する研究	大郷 剛	肺高血圧症先端医学研究部	78,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
急性心筋梗塞や他臓器虚血の原因となる特発性冠動脈解離の診断基準策定・診療実態ならびに予後についての臨床エビデンスを創出する研究	片岡 有	心臓血管内科	13,845,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性心不全発症予防・重症化予防のための次世代医療基盤確立に向けたゲノム・オミックス解析とデータシェアリング	坂田 泰彦	臨床研究開発部	83,330,000	補 委	日本医療研究開発機構

計 202 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	邑井洸太	冠疾患科医師	The association between the extent of lipidic burden and delta-fractional flow reserve: analysis from coronary physiological and near-infrared spectroscopic measures	Cardiovascular Diagnosis and Therapy. 2021 Apr; 11: 362-372	Original Article
2	鎌倉令	不整脈科医師	Vein of Marshall Ethanol Infusion Feasibility, Pitfalls, and Complications in Over 700 Patients	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology. 2021 Aug; 14: e010001	Original Article
3	鎌倉令	不整脈科医師	Role of endocardial ablation in eliminating an epicardial arrhythmogenic substrate in patients with Brugada syndrome	Heart Rhythm. 2021 Oct; 18: 1673-1681	Original Article
4	石井奈津子	非常勤医師	One Indication for an Extravascular Cardiac Resynchronization Therapy Defibrillator: Lessons from a Combination Therapy Case with Epicardial Cardiac Resynchronization Therapy and a Subcutaneous Implantable Cardioverter Defibrillator	Internal Medicine. 2021 Jun; 60: 1877-1880	Case Report
5	島本恵子	心臓血管系集中治療科医師	An anatomical approach to determine the location of the sinoatrial node during catheter ablation	Journal of Cardiovascular Electrophysiology. 2021 May; 32: 1320-1327	Original Article
6	島本恵子	心臓血管系集中治療科医師	Echocardiographic predictors of cardioembolic stroke due to underlying atrial fibrillation: Reliable left atrial remodeling signs in acute stroke	Journal of the Neurological Sciences. 2021 Aug; 427: 117514	Original Article
7	神崎秀明	心不全科医長 (病棟)	Influence of Left Ventricular Function on the "Aortic Regurgitation Index" Proposed for the Hemodynamic Assessment of Postprocedural Aortic Regurgitation	International Heart Journal. 2021 Sep; 62: 1019-1025	Original Article
8	田所直樹	心臓外科医師	Efficacy of central extracorporeal life support for patients with fulminant myocarditis and cardiogenic shock	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2021 Nov; 60: 1184-1192	Original Article

9	田所直樹	心臓外科医師	Comparison of safety and haemodynamic performance between the Avalus™ stented aortic valve bioprosthesis and Magna™ valve in Japanese patients	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Jul; 69: 1060–1069	Original Article
10	生田亜由美	非常勤医師	Reverse remodelling after aortic valve replacement for chronic aortic regurgitation	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2021 Jul; 33: 10–18	Original Article
11	南公人	集中治療科医師 (ICU)	U-Shaped Association Between Intraoperative Net Fluid Balance and Risk of Postoperative Recurrent Atrial Tachyarrhythmia Among Patients Undergoing the Cryo-Maze Procedure: An Observational Study	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2021 Aug; 35: 2392–2396	Original Article
12	南公人	集中治療科医師 (ICU)	Association Between Sternotomy Versus Thoracotomy and the Prevalence and Severity of Chronic Postsurgical Pain After Mitral Valve Repair: An Observational Cohort Study	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2021 Oct; 35: 2937–2944	Original Article
13	田所直樹	心臓外科医師	Surgical exclusion of an idiopathic saccular aneurysm in the left main trunk of the coronary artery	Surgery Today. 2021 Sep; 51: 1464–1470	Original Article
14	清家愛幹	血管外科医長 (病棟)	Severe intraluminal atheroma and iliac artery access affect spinal cord ischemia after thoracic endovascular aortic repair for degenerative descending aortic aneurysm	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Oct; 69: 1367–1375	Original Article
15	田中寛大	脳卒中集中治療科医師	Macrosquare-wave Jerks Subsiding after Hydrocephalus Treatment in a Thalamic Hemorrhage Patient	Internal Medicine. 2021 Aug; 60: 2487–2490	Original Article
16	高下純平	脳血管内科医師	Early recurrent ischemic events after mechanical thrombectomy: effect of post-treatment intracranial hemorrhage	Journal of Neurology. 2021 Aug; 268: 2810–2820	Original Article
17	三輪佳織	脳血管内科医長	Effect of Heart Rate Variabilities on Outcome After Acute Intracerebral Hemorrhage: A Post Hoc Analysis of ATACH-2	Journal of the American Heart Association. 2021 Aug; 10: e020364	Original Article
18	田中寛大	脳卒中集中治療科医師	Endovascular Therapy for Acute Ischemic Stroke in Patients With Prestroke Disability	Journal of the American Heart Association. 2021 Aug; 10: e020783	Original Article

19	田中寛大	脳卒中集中治療科医師	Transesophageal Echocardiography in Ischemic Stroke With Atrial Fibrillation	Journal of the American Heart Association. 2021 Nov; 10: e022242	Original Article
20	高下純平	脳血管内科医師	Mechanical thrombectomy for stroke patients anticoagulated with direct oral anticoagulants versus warfarin	Journal of the Neurological Sciences. 2021 Aug; 427: 117545	Original Article
21	豊田一則	副院長	Blood Pressure Level and Variability During Long-Term Prasugrel or Clopidogrel Medication After Stroke PRASTRO-I	Stroke. 2021 Apr; 52: 1234-1243	Original Article
22	藤田恭平	非常勤研究員	Outcomes of Large Vessel Occlusion Stroke in Patients Aged ≥ 90 Years	Stroke. 2021 May; 52: 1561-1569	Original Article
23	田中智貴	脳神経内科医長 (病棟)	Antiseizure medications for post-stroke epilepsy: A real-world prospective cohort study	Brain and Behavior. 2021 Sep; 11: e2330	Original Article
24	田中智貴	脳神経内科医長 (病棟)	Head-to-head comparison of amplified plasmonic exosome A β 42 platform and single-molecule array immunoassay in a memory clinic cohort	European Journal of Neurology. 2021 May; 28: 1479-1489	Original Article
25	吉本武史	脳神経内科医師	Blind Exchange With Mini-Pinning Technique Using the Tron Stent Retriever for Middle Cerebral Artery M2 Occlusion Thrombectomy in Acute Ischemic Stroke	Frontiers in Neurology. 2021 May; 12: 667835	Original Article
26	田中智貴	脳神経内科医長 (病棟)	Influence of Renal Impairment and Genetic Subtypes on Warfarin Control in Japanese Patients	Genes. 2021 Oct; 12: 1537	Original Article
27	吉本武史	脳神経内科医師	Identifying large ischemic core volume ranges in acute stroke that can benefit from mechanical thrombectomy	Journal of NeuroInterventional Surgery. 2021 Dec; 13: 1081-1087	Original Article
28	細木聡	循環器病専門修練医	Diagnostic and prognostic blood biomarkers in vascular dementia: From the viewpoint of ischemic stroke	Neurochemistry International. 2021 Jun; 146: 105015	Original Article

29	中奥由里子	非常勤研究員	AI-Assisted In-House Power Monitoring for the Detection of Cognitive Impairment in Older Adults	Sensors. 2021 Sep; 21: 6249	Original Article
30	藤本一途	小児循環器内科 医師	Morphological changes and number of candidates for transcatheter pulmonary valve implantation in conduits involving heterograft and artificial material	Heart and Vessels. 2021 Sep; 36: 1384-1391	Original Article
31	津田悦子	医療安全管理室 長	Changes in Coronary Aneurysm Diameters After Acute Kawasaki Disease from Infancy to Adolescence	Pediatric Cardiology. 2021 Dec; 42: 1749-1756	Original Article
32	今井健太	小児心臓外科 医師	Long-term Outcomes of Extracardiac Total Cavopulmonary Connection for Apicocaval Juxtaposition	The Annals of Thoracic Surgery. 2021 Oct; 112: 1326-1333	Original Article
33	今井健太	小児心臓外科 医師	Impact of bilateral bidirectional Glenn anastomosis on staged Fontan strategy and Fontan circulation	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2021 Oct; 60: 930-938	Original Article
34	帆足孝也	小児心臓外科 医長(外来)	Mid-term outcomes of Contegra implantation for the reconstruction of the right ventricular outflow tract to proximal branch pulmonary arteries: Japan multicentre study	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2021 Aug; 33: 227-236	Original Article
35	神谷千津子	産婦人科 医長	Cardiovascular disease among pregnant women after anticancer therapy	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2021 Jul; 47: 2278-2290	Review
36	笹ヶ迫奈々 代	非常勤 医師	Two cases of pregnancy after achieving complete remission of chronic active Epstein-Barr virus infection	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2021 Nov; 47: 4049-4054	Original Article
37	吉原史樹	腎臓・高血圧 内科部長	Combined evaluation of plasma B-type natriuretic peptide and urinary liver-type fatty acid-binding protein/creatinine ratio is related to worsening renal function in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention	Clinical and Experimental Nephrology. 2021 Dec; 25: 1319-1328	Original Article
38	松尾実紀	腎臓・高血圧 内科医師	Hypocholesterolemia is a risk factor for reduced systemic vascular resistance reactivity during hemodialysis	Hypertension Research. 2021 Aug; 44: 988-995	Original Article

39	下川亮	麻酔科医師	Impact of Balloon Postdilation on Six-Year Mortality After Transcatheter Aortic Valve Replacement	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2021 Sep; 35: 2626-2630	Original Article
40	西井達矢	画像診断科医長 (高精細画像解析)	A Real-World Clinical Implementation of Automated Processing Using Intelligent Work Aid for Rapid Reformation at the Orbitomeatal Line in Head Computed Tomography	Investigative Radiology. 2021 Sep; 56: 599-604	Original Article
41	北原慧	循環器病専門修練医	The feasibility and limitation of coronary computed tomographic angiography imaging to identify coronary lipid-rich atheroma in vivo: Findings from near-infrared spectroscopy analysis	Atherosclerosis. 2021 Apr; 322: 1-7	Original Article
42	福田真弓	臨床研究品質管理室長	Impact of Renal Impairment on Intensive Blood-Pressure-Lowering Therapy and Outcomes in Intracerebral Hemorrhage Results From ATACH-2	Neurology. 2021 Aug; 97: e913-e921	Original Article
43	井倉恵	薬剤師	Discontinuation of oral amphotericin B therapy does not influence the pharmacokinetics of tacrolimus in heart transplant patients	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics. 2021 Aug; 59: 566-571	Original Article
44	藤原祥高	発生工学研究室長	The conserved fertility factor SPACA4/Bouncer has divergent modes of action in vertebrate fertilization	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2021 Sep; 118: e2108777118	Original Article
45	原田恭弘	分子生理部リサーチフェロー	ETS-dependent enhancers for endothelial-specific expression of serum/glucocorticoid-regulated kinase 1 during mouse embryo development	Genes to Cells. 2021 Aug; 26: 611-626	Original Article
46	高橋佑典	分子薬理部 上級研究員	Visualization of Spatial Distribution of Spermatogenesis in Mouse Testes Using Creatine Chemical Exchange Saturation Transfer Imaging	Journal of Magnetic Resonance Imaging. 2021 Nov; 54: 1457-1465	Original Article
47	丸山慶子	分子病態部 特任研究員	A novel homozygous variant of the thrombomodulin gene causes a hereditary bleeding disorder	Blood Advances. 2021 Oct; 5: 3830-3838	Original Article
48	殿村修一	血管生理学部 非常勤研究員	Cerebral microbleeds in vascular dementia from clinical aspects to host-microbial interaction	Neurochemistry International. 2021 Sep; 148: 105073	Original Article

49	曾野部崇	心臓生理研究室 室長	Carrier-mediated serotonin efflux induced by pharmacological anoxia in the rat heart in vivo	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology. 2021 Dec; 48: 1685-1692	Original Article
50	川田徹	循環制御研究室 室長	Ivabradine augments high-frequency dynamic gain of the heart rate response to low- and moderate-intensity vagal nerve stimulation under β -blockade	American Journal of Physiology-Heart and Circulatory Physiology. 2021 Jun; 320: H2201-H2210	Original Article
51	川田徹	循環制御研究室 室長	Open-loop analysis on sympathetically mediated arterial pressure and urine output responses in spontaneously hypertensive rats: effect of renal denervation	Journal of Physiological Sciences. 2021 Apr; 71: 13	Original Article
52	大高晋之	生体医工学部 上級研究員	Adhesion of Flk1-expressing cells under shear flow in phospholipid polymer-coated immunoaffinity channels	Journal of Micromechanics and Microengineering. 2021 Apr; 31: 045012	Original Article
53	馬原淳	組織工学研究室 室長	Impact of REDV peptide density and its linker structure on the capture, movement, and adhesion of flowing endothelial progenitor cells in microfluidic devices	Materials Science & Engineering C-Materials for Biological Applications. 2021 Oct; 129: 112381	Original Article
54	尾形宗士郎	人工知能活用推 進室長	Incidence Rate of Acute Coronary Syndrome Including Acute Myocardial Infarction, Unstable Angina, and Sudden Cardiac Death in Nobeoka City for the Super-Aged Society of Japan	Circulation Journal. 2021 Oct; 85: 1722-1730	Original Article
55	西村邦宏	予防医学・疫学 情報部長	Impact of Physician Volume and Specialty on In-Hospital Mortality of Ischemic and Hemorrhagic Stroke	Circulation Journal. 2021 Oct; 85: 1876-1884	Original Article
56	尾形宗士郎	人工知能活用推 進室長	Heatstroke predictions by machine learning, weather information, and an all-population registry for 12-hour heatstroke alerts	Nature Communications. 2021 Jul; 12: 4575	Original Article
57	石川泰輔	ゲノム系解析室 室長	Functionally validated SCN5A variants allow interpretation of pathogenicity and prediction of lethal events in Brugada syndrome	European Heart Journal. 2021 Aug; 42: 2854-2863	Original Article
58	若林真樹	プロテオーム系 解析室長	Effect of age on the vascular proteome in middle cerebral arteries and mesenteric resistance arteries in mice	Mechanisms of Ageing and Development. 2021 Dec; 200: 111594	Original Article

59	邑井洸太	冠疾患科医師	Temporal Changes in Near-Infrared Spectroscopy Signals in Recurrent In-Stent Restenosis Attributable to Calcified Nodule	Canadian Journal of Cardiology. 2021 Nov; 37: 1880-1881	Others
60	邑井洸太	冠疾患科医師	In-Stent Accordion Phenomenon: Coronary Folds Protruding From the Cells Detected With Optical Coherence Tomography	JACC: Cardiovascular Interventions. 2021 Sep; 14: e227-e228	Others
61	邑井洸太	冠疾患科医師	Transdermal Nitroglycerin Patch as a Potential Pretreatment to Prevent Radial Artery Spasm During Transradial Cardiac Catheterization	Journal of Invasive Cardiology. 2021 Jul; 33: E584	Others
62	三浦弘之	冠疾患科医師	Tailored Cardiac Rehabilitation for Older Patients With Heart Failure — Will Cybernetics Be a New Treatment Option for Cardiac Rehabilitation? —	Circulation Journal. 2022 Jan; 86: 68-69	Others
63	片岡有	冠疾患科医長 (病棟)	Circulating Furin-Cleaved Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 Concentration Predicts Future Coronary Events in Japanese Subjects	JACC: Asia. 2021 Dec; 1: 360-368	Original Article
64	田原良雄	心臓血管系集中 治療科医長 (HCU)	Cluster Randomized Trial of Duration of Cooling in Targeted Temperature Management After Resuscitation for Cardiac Arrest	Circulation Reports. 2021 Jun; 3: 368-374	Original Article
65	田原良雄	心臓血管系集中 治療科医長 (HCU)	Rationale and Design of the Kento Heart Safe City Project: A First-aid System Using an Emergency Alarm Button (SOS Button)	Journal of Coronary Artery Disease. 2021 Sep; 27: 91-96	Original Article
66	草野研吾	心臓血管内科部 長(不整脈担当)	Effectiveness and Safety of Rivaroxaban by General Practitioners- A Multicenter, Prospective Study in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation (GENERAL)	Circulation Journal. 2021 Jul; 85: 1275-1282	Original Article
67	山形研一郎	不整脈科医師	Comparison Between Septal Pacing With the Catheter Delivery System and Apical Pacing With the Stylet Delivery System for Ventricular Lead Placement: A Randomized Controlled Trial	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology. 2021 Nov; 14: e010362	Letter
68	上田暢彦	不整脈科医師	Prevalence and characteristics of the Brugada electrocardiogram pattern in patients with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy	Journal of Arrhythmia. 2021 Aug; 37: 1173-1183	Original Article

69	草野研吾	心臓血管内科部長(不整脈担当)	The Japanese Catheter Ablation Registry (J-AB): Annual report in 2019	Journal of Arrhythmia. 2021 Oct; 37: 1443-1447	Original Article
70	石橋耕平	不整脈科医長(診断・検査)	Retrograde penetration pacing into the conduction system as an alternative approach of his-bundle pacing	Journal of Cardiology. 2022 Jan; 79: 127-133	Original Article
71	島本恵子	心臓血管系集中治療科医師	Zero-fluoroscopy ablation in patients with cardiac electronic implantable devices	Journal of Cardiovascular Electrophysiology. 2022 Mar; 33: 423-429	Original Article
72	宮崎裕一郎	不整脈科医師	Leadless pacemaker implantation in a patient with a fully magnetically levitated left ventricular assist device	Pacing and Clinical Electrophysiology. 2021 Jun; 44: 1126-1129	Case Report
73	宮崎裕一郎	不整脈科医師	Rescue percutaneous coronary intervention for sinus node dysfunction following left atrial flutter ablation	HeartRhythm Case Reports. 2021 May; 7: 529-532	Case Report
74	宮崎裕一郎	不整脈科医師	Atrioventricular nodal reentrant tachycardia in a nonagenarian-Triple traps of AV block	HeartRhythm Case Reports. 2021 Apr; 7: 442-445	Case Report
75	宮崎裕一郎	不整脈科医師	Narrow QRS complex tachycardia with a 2:1 atrioventricular block: What is the mechanism	Pacing and Clinical Electrophysiology. 2021 Jul; 44: 1224-1226	Case Report
76	相庭武司	臨床検査部長	Frequent Premature Ventricular Contraction and Non-Sustained Ventricular Tachycardia After the SARS-CoV-2 Vaccination in Patient With Implantable Cardioverter Defibrillator Due to Acquired Long-QT Syndrome	Circulation Journal. 2021 Oct; 85: 2117	Original Article
77	村田有	心臓血管内科レジデント	Impact of atrial septal pacing in left ventricular-only pacing in patients with a firstdegree atrioventricular block: a case series	HeartRhythm Case Reports. 2022 Mar; 8: 187-190	Original Article
78	岡怜史	循環器病専門修練医	Mechanical coronary artery stenosis induced by active fixation left ventricular lead: a case of acute complication after cardiac resynchronization therapy device implantation	European Heart Journal. 2022 Mar; 43: 1271	Original Article

79	天野雅史	心不全科医師	Additional Effects of Antiplatelet Therapy on Anticoagulant Agents in Patients With Bioprosthetic Valves and Atrial Fibrillation	Circulation Journal. 2022 Feb; 86: 415-424	Original Article
80	泉知里	心臓血管内科部長(心不全担当)	Antithrombotic Therapy for Patients With Atrial Fibrillation and Bioprosthetic Valves – Real-World Data From the Multicenter, Prospective, Observational BPV-AF Registry	Circulation Journal. 2022 Feb ; 86: 440-448	Original Article
81	泉知里	心臓血管内科部長(心不全担当)	Evaluation of Diastolic Dysfunction in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction (HFpEF) – Is It Possible to Delineate the Phenotype of HFpEF?	Circulation Journal. 2022 Jan; 86: 34-36	Others
82	岡田厚	心不全科医師	Grade 3 myocardial uptake in 99mtechnetium-pyrophosphate scintigraphy in light chain cardiac amyloidosis	European Heart Journal: Case Reports. 2021 Aug; 5: ytab321	Case Report
83	羽田佑	移植対策室医師	Left Ventricular Dysfunction Caused by IgG4-related Small Intramural Coronary Periarteritis	Internal Medicine. 2022 Jan; 61: 59-63	Case Report
84	泉知里	心臓血管内科部長(心不全担当)	Perspectives of managements of valvular heart diseases in transcatheter intervention era: What should we discuss from the guidelines?	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals. 2021 May; 29: 247-249	Others
85	中川頌子	心不全科医師	Acute Hemolytic Anemia Due to Single Leaflet Device Attachment After Transcatheter Edge-to-Edge Mitral Valve Repair	Circulation Journal. 2021 Apr; 85: 693	Original Article
86	北井豪	心不全科医長(外来)	Optimal Timing of Surgery for Patients with Active Infective Endocarditis	Cardiology Clinics. 2021 May; 39: 197-209	Review
87	北井豪	心不全科医長(外来)	Advances and Controversies in the Management of Mitral Valve Disease	Cardiology Clinics. 2021 May; 39: xi	Others
88	北井豪	心不全科医長(外来)	Early intravenous vasodilator therapy in acute decompensated heart failure: Is the time-to-treat concept still applicable in a pre-hospital setting?	International Journal of Cardiology. 2022 Feb; 349: 103-104	Others

89	北井豪	心不全科医長 (外来)	Intestinal barrier dysfunction is associated with elevated right atrial pressure in patients with advanced decompensated heart failure	American Heart Journal. 2022 Mar; 245: 78-80	Original Article
90	角田宇司	心臓外科医師	Novel risk score for predicting recurrence of atrial fibrillation after the Cryo-Maze procedure	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2021 Jun; 59: 1218-1225	Original Article
91	金森敬彦	心臓血管内科レジデント	A Survivor of Acute and Delayed Coronary Obstruction After Valve-in-Valve Transcatheter Aortic Valve Replacement	JACC: Cardiovascular Interventions. 2021 Oct; 14: 2187-2188	Others
92	井上陽介	血管外科医長 (外来)	Preoperative brain computed tomographic perfusion for quantitative evaluation of cerebral malperfusion caused by acute type A aortic dissection	JTCVS Techniques. 2021 Sep; 10: 190-195	Case Report
93	清家愛幹	血管外科医長 (病棟)	Preoperative renal function affects outcomes of surgery for aortic arch aneurysm in the elderly	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Jul; 69: 1050-1059	Original Article
94	井上学	脳卒中集中治療科医長(経管治療)	Mechanical Thrombectomy Up to 24 Hours in Large Vessel Occlusions and Infarct Velocity Assessment	Journal of the American Heart Association. 2021 Dec; 10: e022880	Original Article
95	井上学	脳卒中集中治療科医長(経管治療)	Expanding the therapeutic window in acute ischemic stroke by advanced imaging	Vessel Plus. 2021 ; 5: 11	Review
96	田中寛太	脳卒中集中治療科医師	Clinical Strategies Against Early Hematoma Expansion Following Intracerebral Hemorrhage	Frontiers in Neuroscience. 2021 Aug; 15: 677744	Review
97	鷺田和夫	脳神経内科医長 (病棟)	A Nationwide Multi-Center Questionnaire Survey on the Real-World State and Clinical Management of Poststroke Dementia in Japan	Journal of Alzheimer's Disease. 2021 Nov; 84: 1103-1114	Original Article
98	吉本武史	脳神経内科医師	Study Protocol for a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Phase-II Trial: AdrenoMedullin for Ischemic Stroke Study	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2021 Jun; 30: 105761	Original Article

99	齊藤聡	脳神経内科医師	Conversion from cilostazol to OPC-13015 linked to mitigation of cognitive impairment	Alzheimer's & Dementia (N Y). 2021 May; 7: e12182	Original Article
100	櫛 裕史	脳神経外科医師	Transvenous Coil-plugging Technique for a Symptomatic Giant Varix Associated with Arteriovenous Malformation	NMC Case Report Journal. 2021 Aug; 8: 479-483	Case Report
101	藤本一途	小児循環器内科医師	Successful treatment of symptomatic first-degree atrioventricular block after Occlutech Figulla Flex II atrial septal defect occluder placement	Journal of Cardiology Cases. 2022 Mar; 25: 126-129	Original Article
102	小森元貴	小児心臓外科医師	Interventricular septal haematoma after EXCOR paediatric implantation	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2021 May; 59: 1131-1133	Case Report
103	北村惣一郎	名誉総長	Mortality analysis of arterial switch operation for transposition of the great arteries with and without ventricular septal defect	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2022 Mar; 61: 797-804	Case Report
104	小野譲数	小児心臓外科非常勤医師	Impact of right ventriculotomy for tetralogy of Fallot repair with a pulmonary valve-sparing procedure	JTCVS Open. 2022 Mar; 9: 191-205	Original Article
105	小西妙	産婦人科医師	Clinicopathologic Study of Placentas From Women With a Fontan Circulation	Circulation Journal. 2022 Jan; 86: 138-146	Original Article
106	道倉雅仁	糖尿病・脂質代謝内科 研究補助者(臨床検査技師)	Achilles Tendon Softness as a New Tool for Diagnosing Familial Hypercholesterolemia	JACC: Cardiovascular Imaging. 2021 Jul; 14: 1483-1485	Original Article
107	浅野遼太郎	心臓血管内科部 肺循環科 非常勤医師	Prognostic value of right ventricular native T1 mapping in pulmonary arterial hypertension	PLOS ONE. 2021 Nov; 16: e0260456	Original Article
108	上田浩平	循環器病専門修練医	Aortic valve insufficiency after Impella device insertion that required aortic valve replacement after Heart Mate III left ventricular assist device implantation: a case report	Journal of Surgical Case Reports. 2021 Oct; 2021: rjab420	Case Report

109	園田桂子	分子生物学部 上級研究員	Long-Read Sequence Confirmed a Large Deletion Including MYH6 and MYH7 in an Infant of Atrial Septal Defect and Atrial Arrhythmias	Circulation: Genomic and Precision Medicine. 2021 Aug; 14: e003223	Letter
110	樋口由佳	分子病態部 上級研究員	Commonly used anti-von Willebrand factor antibody for multimer analysis cross-reacts with fibronectin, which is difficult to distinguish from von Willebrand factor	Research and Practice in Thrombosis and Haemostasis. 2021 Sep; 5: e12598	Original Article
111	山崎泰男	血栓止血研究室長	V-ATPase V0a1 promotes Weibel-Palade body biogenesis through the regulation of membrane fission	eLife. 2021 Dec; 10: e71526	Original Article
112	丸山慶子	分子病態部 特任研究員	First report of inherited protein S deficiency caused by paternal PROS1 mosaicism	Haematologica. 2022 Jan; 107: 330-333	Original Article
113	斯波真理子	分子病態部非常勤研究員	How Can We Improve the Diagnosis Rate of Familial Hypercholesterolemia by Amending Diagnosis Criteria?	Circulation Journal. 2021 May; 85: 898-899	Others
114	オーペイ チェン コニー	細胞生物学部特任研究員	Targeting Oxidative Stress in Septic Acute Kidney Injury: From Theory to Practice	Journal of Clinical Medicine. 2021 Aug; 10: 3798	Review
115	朔啓太	制御治療機器研究室長	How Should We Develop New Risk Scores for Cardiogenic Shock?	Circulation Journal. 2022 Mar; 86: 695-698	Original Article
116	川田徹	循環制御研究室長	Closed-Loop Identification of Baroreflex Properties in the Frequency Domain	Frontiers in Neuroscience. 2021 Aug; 15: 694512	Original Article
117	李梅花	循環動態制御部 上級研究員	Impact of Peripheral $\alpha 7$ -Nicotinic Acetylcholine Receptors on Cardioprotective Effects of Donepezil in Chronic Heart Failure Rats	Cardiovascular Drugs and Therapy. 2021 Oct; 35: 877-888	Original Article
118	川田徹	循環制御研究室長	Ivabradine increases the high frequency gain ratio in the vagal heart rate transfer function via an interaction with muscarinic potassium channels	Physiological Reports. 2021 Dec; 9: e15134	Original Article

119	川田 徹	循環制御研究室 長	Quantitative assessment of the central versus peripheral effect of intravenous clonidine using baroreflex equilibrium diagrams	The Journal of Physiological Sciences. 2021 Dec; 71: 39	Original Article
120	豊田 一則	副院長	Twenty-Year Change in Severity and Outcome of Ischemic and Hemorrhagic Strokes	JAMA Neurology. 2022 Jan; 79: 61-69	Original Article
121	和田 晋一	情報利用促進部 上級研究員	Paraneoplastic Cerebellar Degeneration and Lambert-Eaton Myasthenic Syndrome with SOX-1 Antibodies	Internal Medicine. 2021 May; 60: 1607-1610	Case Report
122	利根川 玲奈	情報利用促進部 非常勤研究員	T2-weighted short-tau-inversion-recovery imaging reflects disease activity of cardiac sarcoidosis	Open heart. 2021 Sep; 8: e001728	Original Article
123	利根川 玲奈	情報利用促進部 非常勤研究員	Prompt recognition and successful aspiration of a left atrial thrombus under intracardiac echocardiography guidance during radiofrequency catheter ablation for atrial tachycardia	EP Europace. 2021 Oct; 23: 1527	Original Article

計 123件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準
じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 「倫理委員会の運営」、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 8 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 「新指針と臨床研究倫理の要点」 「研究倫理審査委員会への審査申請手続きについて」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心臓血管内科部門プログラム 不整脈科、肺循環科、心不全科、冠疾患科、血管科、重症心不全・心臓移植、循環器救急
心臓血管外科部門プログラム
脳血管部門プログラム 脳血管内科・脳神経内科、脳神経外科
小児循環器科・産婦人科部門プログラム 小児循環器内科コース、産婦人科コース、小児心臓外科コース、新生児小児集中治療コース、成人先天性心疾患コース
生活習慣病部門プログラム 腎臓・高血圧内科、糖尿病・脂質代謝内科、健診部、予防医療部
中央診療部門プログラム 心血管リハビリテーション科コース・病理コース・麻酔科コース・放射線コース・外科系集中治療科（ICU）コース

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	129 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野口 暉夫	心臓血管内科	副院長	34 年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	副院長	35 年	
黒崎 健一	小児循環器科	小児循環器部特任部長	35 年	
藤田 知之	心臓血管外科	心臓血管外科部門長	28 年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	38 年	
片岡 大治	脳神経外科	脳神経外科部長	28 年	
吉原 史樹	腎臓・高血圧内科	腎臓・高血圧内科部長	33 年	
細田 公則	糖尿病・脂質代謝内科	糖尿病・脂質代謝内科部長	38 年	
吉松 淳	産婦人科	産婦人科部長	35 年	
福田 哲也	放射線科	放射線部長	27 年	
大西 佳彦	麻酔科	副院長	39 年	
畠山 金太	病理診断科	病理部長	32 年	
	精神科			研修プログラム無し

	呼吸器内科			研修プログラム無し
	整形外科			研修プログラム無し
	皮膚科			研修プログラム無し
	泌尿器科			研修プログラム無し
	眼科			研修プログラム無し
	耳鼻咽喉科			研修プログラム無し
	歯科			研修プログラム無し

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：薬剤部レジデントコース、臨床検査技師レジデントコース・研修の期間・実施回数：薬剤 2 年間、臨床検査 3 年間・研修の参加人数：薬剤 3 人、臨床検査 3 人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：①大阪府病院協会 看護職員実務者研修、②循環器病診療に従事する看護師の研修、③透析療法従事者研修・研修の期間・実施回数：①令和4年2月16日～18日・21日オンライン開催、②令和4年2月16日～18日オンライン開催、③令和3年12月6日～12月17日・研修の参加人数：① 37人 ② 72人 ③ 1人

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 飯原 弘二
管理担当者氏名	総務課長：西川 祐史、医事室長：井ノ本 洋平、情報統括部長：平松 治彦、 薬剤部長：川端 一功

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事室	
		各科診療日誌	各診療科、看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	医療情報部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
			平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。 なお、電子カルテ導入以前の紙カルテ・X線フィルム等については、全量廃棄しており現存していない。 診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事室	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課	
		高度の医療の研修の実績	研究医療課	
		閲覧実績	情報統括部	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事室 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
			紙媒体及びデータにて各課で保存	
			紙媒体及びデータにて各課で保存	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理室
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室
第十二号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	

紙媒体及びデータにて各課で保存

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		監査委員会の設置状況	医事室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長:平松 治彦
閲覧担当者氏名	総務課長:西川 祐史、医事室長:井ノ本 洋平
閲覧の求めに応じる場所	・診療録等開示閲覧室
閲覧の手続の概要	
円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 ①開示申請者から所定の申請書提出 ②申請書を受けて開示・不開示の決定 ③申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 ④当該文書等の閲覧	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.患者からの相談への対応に関する基本方針 5.医療従事者と患者との情報の共有に関する基本方針 6.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 7.医療事故発生時の対応に関する基本方針 8.医療に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 9.その他の医療の安全の確保のための基本方針】</p> <p>第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。 【医療安全管理の具体的内容： 1. 医療安全推進の原則 2. 医療安全管理体制、推進活動 3. 用語の定義 4. 院愛危機管理体制・対応 1) 直ちに口頭1報を要する事案 2) インシデント・医療事故等の報告、分析、改善、情報共有 3) 重症回診及び医療事故発生時の対応 4) 緊急報告事案 5) 医療事故発生時の対応で留意する事項 6) 職員への周知 5. 教育研修 6. 患者家族からの相談時の対応 7. その他医療安全推進活動】</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>ア) 医療安全管理指針の制定、改訂に関する事。</p> <p>イ) 医療安全管理に関する職員への教育・研修に関する事。</p> <p>ウ) 医療安全確保を目的とした改善のための検討に関する事。</p> <p>エ) 医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関する事。</p> <p>オ) 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関する事。</p> <p>カ) 医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関する事。</p> <p>キ) 医療安全上の訴訟に関する事。</p> <p>ク) 診療に関する患者・家族からの意見、要望に関する事。</p> <p>ケ) その他医療安全管理に関する事等</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>全職員対象医療安全講習会 第1回：R3年5月17日～6月30日 e-ラーニング 「特定機能病院における医療安全のガバナンス」 奈良県立病院機構 理事長 上田 裕一 先生</p> <p>第2回：R3年12月13日～R4年1月31日 e-ラーニング 「SDM (Shared Decision Making) とは何か？ ～EBMの原点から新たな医療コミュニケーションへ～」 京都大学大学院医療研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授 中山 健夫 先生</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

医療安全管理室コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成(医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職)になっており、コア会議で検討した上、医療安全推進担当者会議や院内事例検討会等の意見を集約、改善策を検討し、医療安全管理委員会で決定し職員へ周知している。

その他、医師、看護師、コメディカル、事務職など多職種自由参加としたM&Mカンファレンス(R3年10月開催)も開催した。

また、各診療科、各部門のリスクマネージャーをメンバーとした医療安全推進担当者会議の会議内容等は、各リスクマネージャーが自部署の職員へ伝達するだけでなく、院内ポータルサイトに会議資料を掲載し、全職員が閲覧できるようにし、周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①院内感染対策に関する基本的考え方 ②院内感染管理体制 ③職員研修 ④感染症の発生状況の報告 ⑤院内感染発生時の対応 ⑥患者への情報提供と説明 ⑦抗菌薬適正使用の推進 ⑧感染対策に関する地域連携への取り組み ⑨その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下の事項について審議、決定する。 ①院内感染症の調査、予防対策の立案 ②予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③職員の教育指導 ④院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤その他委員長が必要と認める事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>全職員対象 前期：①COVID-19現状と対策 ②COVID-19と細菌検査の検体採取について ③薬剤耐性菌と抗菌薬適正使用について ④感染対策のための手指衛生と環境整備</p> <p>後期：①はじめに ②新型コロナウイルス対策における院内の換気と感染対策 ③血管内留置カテーテル関連血流感染予防策 ④抗菌薬の適正使用について</p> <p>新採用者（中途採用者）オリエンテーション 看護部 新人研修</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>菌検出状況やサーベイランスの結果については、感染対策委員会内で定期報告を行い、情報共有している。 アウトブレイクを疑う場合には、感染対策室に報告がされ、感染対策室は情報収集・状況確認等を行ったのち、必要に応じて感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を適宜院長に報告する。</p> <p>感染対策リンクナース会に加え、リンクドクター会、リンクコメディカル会を発足し、適宜注意喚起等を行いながら、全部門で感染対策推進に取り組んでいる。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医薬品の安全使用について 医薬品におけるリスクマネジメント 麻薬・毒薬・向精神薬等管理薬品の取り扱いについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1 医薬品の採用 2 医薬品の購入 3 調剤室における医薬品の管理 4 病棟・各部門への医薬品の供給 5 外来患者への医薬品使用 6 病棟における医薬品の管理 7 入院患者への医薬品使用 8 医薬品情報の収集・管理・提供 9 手術・麻酔部門 10 集中治療室 (ICU・NCU) 11 輸血・血液管理部門 12 生命維持管理装置領域 13 臨床検査部門、画像診断部門 14 歯科領域 15 他施設との連携 16 在宅患者への医薬品使用 17 放射性医薬品 18 院内製剤 19 重大な有害事象の予防・対応 20 事故発生時の対応 21 教育・研修 22 医薬品関連の情報システムの利用 <p>医薬品安全管理責任者は手順書に従った業務遂行について確認し、行われていない場合は改善を指導、また、必要に応じて手順の改定を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信さらに内容によって全医師あてにメール配信、医療安全推進担当者会議、医療安全管理委員会で周知 ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知 ・ 必要に応じてシステムや手順の変更を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年約180回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○第1回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第2回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第1回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○第2回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○PCPS・IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○サイクロトロン研修 他 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。 また、各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検（始業時点検・使用中点検・終業時点検） ○定期点検（電気的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等交換等） ○故障時点検（定期点検に準じた点検を行い、故障箇所を特定する） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索 医療機器の安全使用関連情報を収集し医療安全委員会等で資料を配布。 各職場で伝達し、伝達状況については伝達確認票にて確認する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理担当副院長（医師）を医療安全管理責任者として配置している</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 さらに内容によって医師あてにメール配信、 医療安全推進担当者会議および医療安全管理委員会で周知、 医療安全推進担当者会議は伝達確認票にて各部署への伝達を確認している。 ・重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知を行い、 伝達確認票に押印し、伝達状況を確認している <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用についての申請を受け、医薬品安全管理責任者が室員である新規医療評価室にて委員会を開催し申請内容を議論し、さらに病院倫理委員会に意見を求め、使用の可否の決定を行っている。また、病棟薬剤業務にて薬剤師が把握したものは、処方の必要性、論文等の根拠に基づくリスクの検討の有無、処方の妥当性等を必要に応じて医師に確認し、医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は必要に応じて医師に指導等を行い、院内に必要な情報の共有等を行う。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <p>：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報統括部長に報告している。 	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（ 3 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 3 ）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ ）名 うち臨床工学技士：兼任（ 1 ）名 うち事務職員：兼任（ 1 ）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること ・医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること ・医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること ・重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする。 ・月に1回開催する医療安全推進担当者会議の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起、医薬品安全管理・医療機器安全管理・放射線安全管理・臨床検査等に関する報告・連絡事項などを、各診療科・各部門リスクマネージャーから各部署の従事者全員に周知している。 <p>会議内容等は、各リスクマネージャーが自部署の職員へ伝達するだけでなく、院内ポータル</p>	

サイトに会議資料掲載し、全職員が閲覧できるようにし、更なる周知を図っている。

各リスクマネージャーは、電子媒体において伝達報告書に伝達終了日を記載、署名し、医療安全管理室へ提出している。

- ・診療モニタリングについては、毎年1月～12月の1年間のデータを取りまとめ、ホームページ上に掲載している。
 - ・全職員を対象とした医療安全講習会を年間2回以上開催し、受講状況を確認している。
- R2年度からは、COVID-19感染防止対策より、Eラーニングで①講義を視聴②小テスト③アンケートのすべてを行い終了とし実施している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

2件の継続課題について実施状況を確認し、委員会及び病院長に報告した。なお、治験1件については実施症例がなかった。また、診療科における遵守状況の確認を行い、委員会及び病院長に報告した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (有) ・ 無)

・ 活動の主な内容 :

原則として診療科等におけるカンファレンス等において検討を行った後、診療科の長より新規医療評価室に申請を行う。新規医療評価室は病院倫理委員会に意見を求め、病院倫理委員会は使用に関する倫理的・科学的妥当性及び適切な使用方法について審議し、使用の適否及び使用後に報告を求める症例数等について意見を述べる。意見を踏まえ新規医療評価室にて適否、使用の条件等を決定し、申請者に通知を行う。また、病院長に報告を行う。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有) ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有) ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 171 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 0 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

数日以内に死亡に至る可能性がある患者に対して、医療安全担当副院長等による重症回診担当グループにより死亡に至る経緯に問題がないかどうか『重症回診』を行う。患者が死亡時には『死亡報告シート』に記載し、医療安全管理室、病院幹部への報告を行う。重症回診が実施されていない場合は、担当医師から、副院長、当該部長に報告する。合わせて『重症回診未実施報告シート』を記載し、医療安全管理室、病院幹部への報告を行う。通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生した時は、『事例検討会』を開催し、原因、改善策について検討し、報告対象事案かどうか決定する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (有) (病院名 : 久留米大学病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有) (病院名 : 久留米大学病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

covid-19 感染防止対策のため、立ち入りではなく、書面による医療安全相互チェックを実施。
自己評価表に対する確認事項・質問事項と回答を行うことにて相互チェックを行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口（医事室0番窓口）を設置して対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

開催日 : 2022年4月4日

研修内容 : 1. 医療安全管理全般、2. 医薬品安全管理、3. 医療機器安全管理、4. 放射線安全管理

◇ 1. 医療安全管理全般 :

- ・ NCVC における医療安全の基本的な考え方
- ・ 2022 年度部署目標、病院組織、医療安全管理体制図
- ・ 日本の医療安全の歴史
- ・ 医療安全管理体制 : 医療法施行規則第 1 条の 11、NCVC 職員研修、特定機能病院の医療安全管理体制
- ・ 医療安全管理に係る取り組み、医療事故調査制度
- ・ 当院の医療安全管理体制 : 医療安全管理室主な活動、RRS について、インシデントアクシデント報告、再発防止策など
- ・ 特定機能病院に求められていること : ガバナンスの強化、内部通報窓口、外部監査（特定機能病院間医療安全相互ラウンド、監査委員会による外部監査）

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・ 日本医療機能評価機構が開催する研修を受講

管理者（院長） : 2023年2月20日 特定機能病院管理者研修 継続受講予定

医療安全管理責任者（医療安全管理担当副院長） :

2018年11月（2日間） 特定機能病院管理者研修

2020年1月7日（1日間） 特定機能病院管理者研修

2020年11月25日（1日間） 特定機能病院管理者研修

2021年12月8日（継続・5時間） 特定機能病院管理者研修

医薬品安全管理責任者：2022年4月より現職、2022年11月30日受講予定

医療機器安全管理責任者：2022年継続受講予定

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2022年6月30日～7月2日に、日本医療機能評価機構の病院機能評価「一般病院3」
<3rdG:Ver.2.0>を受審した。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査結果の通知後、速やかにホームページへ公表予定である。

・ 評価を踏まえ講じた措置

受審後審査中のところであるが、改善すべき事項が示された場合は速やかに措置を講じる
予定である。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 1 日本国の医師免許を有していること 2 当センター病院又はセンター病院以外の病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験及び医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること <ul style="list-style-type: none"> ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 ウ 医療安全管理部門における業務 エ その他上記に準ずる業務 3 センター病院又はセンター病院以外の病院において、病院長又は副院長及びそれらに準ずる職のいずれかでの組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること 4 センター病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢及び指導力を有していること <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 当センターのホームページにて公表 (https://www.ncvc.go.jp/about/overview/jyohokokai/byouinchousenkou/)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小川 久雄	国立循環器病研究センター理事長	○	法人理事長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無

望月 直樹	国立循環器病研究センター理事・研究所長		理事長が指名（理事（管理運営担当））	有・無
稲川 武宣	国立循環器病研究センター企画戦略局長		理事長が指名（企画戦略局長）	有・無
三井佐代子	国立循環器病研究センター病院看護部長		理事長が指名（看護部長）	有・無
荒川 哲雄	公立大学法人大阪副理事長		大阪市立大学理事長として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者	有・無
中井 國雄	独立行政法人国立病院機構理事（近畿グループ担当）		病院管理者として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者	有・無
本田 邦章	讀賣テレビ放送株式会社顧問		報道関係者として、医療・保健・福祉全般に豊富な経験と高い識見を有する者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容 名称：執行役員会 理事会で決定した重要事項を遂行するため、センターの所掌事務に関する事項の企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理するとともに、理事会の任務を補佐するため、センターの運営の方針、計画、予算及び決算その他のセンターの運営に関する重要な事項について審議する。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 各部署の部長等会議により、執行役員会での審議事項を報告し、各部署へ周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（(有)・無） 執行役員会に、非常勤監事2名（公認会計士及び弁護士）がオブザーバー参加し、意見を述べていただいている。</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大津 欣也	○	医師	理事長
望月 直樹		医師	理事・研究所長
稲川 武宜		事務	企画戦略局長・企画経営部長
飯原 弘二		医師	病院長
野口 輝夫		医師	副院長
豊田 一則		医師	副院長
大西 佳彦		医師	副院長
草野 研吾		医師	副院長
藤田 知之		医師	副院長
宮本 恵宏		医師	オープンイノベーションセンター長
三原 健司		医師	副オープンイノベーションセンター長
渡辺 真俊		医師	理事長特任補佐
河内 和彦		事務	総務部長・人事部長
柳沢 直樹		事務	財務経理部長
平松 治彦		事務	情報統括部長
木村 尚巧		弁護士	コンプライアンス室長
川端 一功		薬剤師	薬剤部長
空山 直子		看護師	看護部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

組織規程において、「院長は、病院の事務を掌理する。」としている。

また、人事委員会規程（管理者が副委員長）において「特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関する事」を委員会での審議事項の一つとしている。

さらに、理事会規程においては、「理事会において、国立循環器病研究センター病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べる事ができる。理事会は、その意見について十分審議した上で決定しなければならない。」としている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

組織規程において、「副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する」と規定している。副院長の担当する役割として「診療担当」「教育担当」「経営担当」「研究担当」「安全担当」の5つとし、さらに、病院運営に重要な課題が発生した場合には、特命事項に関する事務を総括整理する「特命副院長」を任命できることとしている。

また、総務、人事、財務経理、企画経営等の各事務部門においても、管理者を積極的にサポートしている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

国立病院機構、厚生労働省との人事交流により病院の管理運営に精通する人材の確保に努めている。

また、管理者の外部研修として「トップマネジメント研修」を病院長、副院長、看護部長、事務系部課長が受講している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理室の活動報告、事例検討の報告、他施設とのピアレビュー予定・実施内容など 医薬品安全管理、医療機器安全管理などの報告</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：当院ホームページ 医療安全管理指針・マニュアル (紙媒体、電子媒体)</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	今年度はまだ未開催のため未定	医療安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
柴田 利彦	大阪市立大学 大学院		医療安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
國子 克雄	心を守る会 (患者代表)		医療を受ける者の代表	有・(無)	2
鈴木 憲	国立循環器病 研究センター 副 OIC 長		医療安全部外の立場からの監査	(有)・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
コンプライアンス推進規程を整備し、管理者を含む役職員が全ての法令等を遵守し、社会規範を尊重するとともに、センターの業務活動が高い倫理性を持って行われることを確保するためのコンプライアンスの推進に必要な事項を定めている。
また、年に一度、監査室が内部監査（書面及び実地監査）を行っており、監査結果については理事長に報告・決裁を取り、コンプライアンス室、執行役員会・理事会にも併せて報告している。
併せて、コンプライアンス室では、2ヶ月に1回コンプライアンス委員会を開催し、コンプライアンスの推進に務めている。
- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 当センターの理事会において審議する事項として、業務方法書、中期計画・年度計画に関する事項、財務諸表・決算報告書及び事業報告書に関する事項等に加え、特定機能病院の業務に関する事項についても審議することとして理事会規程に定めている。 また、同規程において「病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。」と規定し、原則として毎回出席している。 ・ 会議体の実施状況（年12回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年12回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
大津 欣也	理事長（内部統制担当役員）	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
望月 直樹	理事・研究所長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
東 和浩	大阪商工会議所副会頭		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
瀧原 圭子	大阪大学キャンパスライフ健康支援センター教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 役職員一斉メール・電子カルテ周知事項掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。</p> <p>定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。</p>	